

# 佐保台地域学校規模適正化

## 検討協議会ニュース【第3号】

平成21年8月

- ◆ 7月25日(土)第3回佐保台地域学校規模適正化検討協議会を開催しました。協議の内容は次のとおりです。

奈良市学校規模適正化実施方針における「佐保台幼稚園を左京幼稚園へ統合・再編し、統合先の左京幼稚園に認定こども園制度を導入して、子育て支援の充実に図る」計画に合意を得ました。今後は、通園手段等の条件整備について具体的に検討を行います。

平成24年4月に左京幼稚園を認定こども園として開園を予定しています。そのため平成22年4月に入園した園児は佐保台幼稚園で卒園しますが、平成23年4月に入園する園児は、平成24年4月に(仮称)認定こども園左京幼稚園に転園することになります。

- ◆ 佐保台地域の子育て支援や教育のあり方、通園手段等について地域・保護者からいろいろなお意見をいただき、議論が交わされました。

- ・ 幼稚園施設を利用して、佐保台地域で自主的に立ち上げてきた子育てサークルがあり、子育て中の若い母親のニーズも高い。佐保台幼稚園があっただけでできるので幼稚園の役割を考えて欲しい。
- ・ 幼稚園の通園費補助制度がないのに、統合・再編を進めるには無理がある。奈良市全体の方向性を確立してから話し合うべきである。少人数がだめなら、小規模園で育った子どもには問題があるのか。何のために統合するのか再度考えて欲しい。
- ・ 年長の園児数は9名であるが、左京幼稚園と交流をして遊んだときは、多くの友だちと遊んだせいか、生き生きとしていた。
- ・ 今年度の入園募集時期に関係保護者に対して、佐保台幼稚園の今後の方向性を具体的に知らせる必要がある。
- ・ 少人数であれば、活動をする場合、待ったり、譲り合ったり、時にはトラブルという経験が出来にくい。子どもは多くの子ども同士の世界の中で育ち合うことが必要である。
- ・ 小さい頃の積み重ねた様々な経験が将来役に立つ。豊かな社会になり、譲り合う、足りない物を貸し借りする等、工夫を図るといった経験が今の世の中から減ってきている。
- ・ 保護者として、子育て中は特に情報が入りにくいので、早く新しい情報を知らせて欲しい。地域の子どもが少ない中で、これほど子育てが難しいとは思わなかった。遊ぶ子どもが近所にいないため、親が相手をしないとイケない状況である。良いかわからないが、統合再編や認定こども園制度の導入を受け入れてみようと思う。
- ・ 幼稚園の跡地利用についても子どものためにしっかり考えたい。